

週日の説教

金 大烈 神父 2009年9月4日(金)

《断食は神様の栄光のために、私達が感謝するために、古いものの方がよいとは偏見の意味》

おはようございます。

今日の福音(ルカ5・33-39)の内容を読んで黙想して見ますと、幾つか分かち合いたい所があったのですが、その中で今日は『断食』と言う言葉の意味と、最後にある『古いものの方がよい』と言う言葉を、ほとんどの方が間違って解釈しているようですので、それを分かち合いたいと思います。

さあ、まず「断食」は何故しますか? 「断食」の中心は何でしょうか? その答えについて考えて見ましょう。今日の福音の最初の所で、律法学者達とファリサイ派の人々が文句を言います。「何故あなたの弟子達は断食しないのか。」結局、律法学者達とファリサイ派の人々は断食にはあまり関心がありませんでした。彼らの目的はイエスという、民を騙している人を、何とかして言葉尻でもつかんで罠に陥れたい、そういう気持ちでこのような質問した訳です。

そこで、イエス様はこのように答えました。『花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。』

皆様、「断食」だけでなく、教会の中に色々な信仰的な行為があるのを私達は知っています。その色々な振る舞い、行為には必ず自的があります。しなければならぬ理由もあります。しかし、時に私達はその働きの動きの中で、目的も理由も忘れてしまう事があります。何時か悪魔は私達より頭がいいと言いましたね。その悪魔が私達の何を狙うと思いますか。信仰的に、忠実に何かを実践しようとする人の姿を見たら、悪魔が必ず狙うのは人の傲慢の心です。そして、人々が錯覚してしまうのは、イエス様の為に行動したにも関わらず、いつの間にか自分が中心になって、その一番上に自分が立ってしまうことです。そういう場合が結構あります。

何か奉仕をしたとしましょう。その奉仕は結局神様の為です。そして神様が命じた全ての事を私達は従う為にするのが奉仕です。しかし、人々の反応を見て、心が痛む場合もあります。そして、その相手を攻めたい気持ちになります。しかし、本来神様の為に自分が捧げようとした奉仕ならば、回りからどんな事を言われても、どんな反応があっても、やはり神様の御旨に従わない事に対して悲しむべきです。しかし、私達は神様の御旨も目的もを忘れてしまい、そして自分が非難される事に心を痛めます。

皆様、「断食」でもいいし、「奉仕」でもいいし、「施し」でいいのです。それは、神様の栄光の為にその栄光の内に生きている私達が感謝するためにする事です。そして、神様への恵みの応答として行う私達の行為が、他の色々な人々に神様の愛を証しする事が出来れば一番いいのです。洗礼者ヨハネは「あの方は栄え、私は衰えねばならない。」(ヨハネ3・30)と言いました。

皆様、「断食」でも色々な良い事でも、まずその目的をいつも忘れないで下さい。忘れてしまうと必ず傲慢と言う悪が私達を攻めます。人との関係も色々な関わりも全て同じ事です。自分に損になっても、非難や中傷があっても、何故私がこんな事になっているのかと心配しないで下さい。神様が報いて下さいます。これが信仰ではないでしょうか。これが奉仕ではないでしょうか。しかし、人間の弱さは周囲の反応に敏感です。ですから、一生懸命にやったのに何故妬んでいるのか、何故冷たい目で私を見ているのか、そういう気持ちになります。

皆様、皆様が良い事して 100 人の中で 99 人が信じてくれなくても、気にしないで下さい。なぜなら全てに勝るイエス様がよく知っているからです。逆に 99 人に誉められても、自分の為に行った事なら、それは悲しい事です。奉仕と言う言葉を他人のためにとと言う言葉を使うためには、自己放棄が必要です。そうじゃなかったら結局私達は、自分の掘った穴に自分が落ちてしまいます。

さあ、最後の話しに行きましょう。『古いものの方がよい』『古いぶどう酒を味わった人は古いぶどう酒を探す。』どう言う意味ですか？ これは古いものが良いと言う意味でしょうか。どう言う意味です？ 偏見を持っている者はしょうがないという事です。自分が今まで好んで使ってきた物に、新しい物が入りにくいという事です。ここでは新しいぶどう酒はイエス・キリストです。古いぶどう酒は昔からイスラエル人が間違えて信じてきた掟であり、考えです。

私達が気にする必要があるのは、何かを判断する時に、自分自身の中に、偏見があるのではないかと客観的に自分を見ようとする心でしょう。人間の本能は、やはり慣れているものが好きです。変化は面倒くさいです。誰かが「何々をしましょう」と言えば「ああ、面倒くさい」と思ってしまうのが私達です。

何故その人がそのように叫んでいるのか、その人の心の中には何があるのか、推し量る心が大切です。実際に 2000 年前、イエス様を十字架に付けて殺してしまった事は、結局このような偏見による事です。現在の私達もこのような偏見の中に生きています。自分にその偏見が無いのか、あるのかを識別する唯一の方法は祈りの中で、イエス様の教えが基準になっているかどうかです。私達は本当に自由にイエス様の御心に従っていれば、たとえ色々な失敗があっても、それでも少しずつ、少しずつ、その失敗を減らす事が出来るのではないかと思います。

ありがとうございました。